序　民衆運動と為政……九
I部　民衆運動と近世の到来
第1章　幕藩制社会と一揆……二〇
はじめに……二〇
一　一揆史からみた中世と近世……二一
二　初期の一揆……三〇
三　一七世紀中後期の一揆……三九
四　一八世紀の一揆……四九
五　幕末維新期の一揆……五九
おわりに……六九
第2章　「島原の乱」の歴史的意義……七〇
はじめに……七〇
一　研究史の到達点と課題……七一

二　国人・土豪一揆段階の島原と天草……七八
三　島原の乱段階の諸問題……八五
おわりに……九〇
第3章　殉教の論理と蜂起の論理……九六
はじめに……九六
一　殉教の論理と蜂起の論理……九七
二　排キリシタンと幕藩制イデオロギー……一一〇
おわりに……一一六
第4章　幕藩制国家の成立と人民闘争……一二〇
一　初期検地と走百姓……一二〇
二　大百姓層の逃散……一二三
三　土豪と一揆の体系性……一二四
II部　近世の社会闘争
第5章　近世民衆運動の配置と流れ—社会闘争史の視野……一二八
一　問題の方向……一二八

二　一七世紀日本の社会闘争史……一三二
三　一八世紀日本の社会闘争史……一三九
四　一九世紀日本の社会闘争史……一四七
五　今後へ向けて……一五五
第6章　野州における下層隷属農民の自立闘争―「前地」の存在形態……一五七
はじめに……一五七
一　「前地」の存在形態……一五九
二　「前地」の「解放」と「自立」……一七六
おわりに……一九〇
第7章　幕藩制における村請制の特質と農民闘争……一九四
はじめに……一九四
一　村請制支配の構造と矛盾……一九五
二　全藩的越訴と村方騒動……二〇三
三　質地地主・小作関係の一般的成立と村請制……二〇九
四　全藩的強訴の展開とその性格……二一九
おわりに……二二五

第8章　国家の人民支配と階級闘争―幕藩制のばあい……二三九

III部　公儀不信と世直し

第9章　社会の変容と改革・一揆……二四四

一　都市と農村―民間社会の活力と変容……二四四

二　津藩領商人と江戸藩邸……二四七

三　家中の在郷許可……二五〇

四　請免制と質地規制……二五一

五　享保の飢饉と切印金制度の開始……二五四

六　長谷場村の永谷家……二五七

七　寛政の改革と高嶷……二六〇

八　能吏の抜擢―茨木理兵衛と外山与三右衛門……二六二

九　草木による殖産……二六四

十　川村嘉平次と松本宗十郎……二六五

十一　切印金百年賦……二六六

十二　地割令……二六八

十三　大庄屋池田佐助の赦免願い……二六九

十四　寛政八年の百姓一揆と口利佐太夫……二七〇
十五　下として上を制する風俗……二七三
十六　町井友之丞・森惣左衛門・多木藤七郎の処刑……二七五
第10章　募藩制と諸闘争……二七七
はじめに……二七七
一　百姓一揆と貨幣経済・小商品生産……二七八
二　百姓一揆の組織と意識……二八七
三　都市住民の闘争……二九二
四　世直し闘争と土地所持……二九六
おわりに……二〇一
第11章　世直しと御一新……二〇六
はじめに……二〇六
一　下野の支配関係……二〇七
二　諸史料における世直しの表現……二〇九
三　世直しの目標……二一四
四　世直しの対抗関係と頭取……二一八
五　慶応四年の諸騒動……二二三

六　有他者・村役人層の対応……三二六
七　旧支配機構の崩壊……三二八
八　御一新政治の開始……三三〇
おわりに……三三三
第12章　幕藩制社会の階級闘争史研究について……三三八
一　維新変革への関心……三三八
二　幕藩制の諸段階と闘争の関係……三四二
三　一揆史料……三四九
第13章　世直し一揆と新政反対一揆……三五九
はじめに……三五九
一　世直し一揆の意識と行動……三六〇
二　新政反対一揆の意識と行動……三八〇
第14章　移行期の民衆運動……四〇三
一　鳴動する移行期民衆運動……四〇三
二　江戸時代の枠組みと民衆運動……四〇四
三　平等化平準化の願望……四〇五

四　政治化軍事化と公儀・天朝への抗議……四〇七
五　伝統の保守と再装備……四〇八
初出一覧……四一一
解説　階級闘争史から民衆運動史（社会闘争史）へ……保坂　智……四一三
——「仁政」と「御百姓意識」の発見を中心に——